

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700748		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム楓の郷 1階		
所在地	福島県須賀川市西田町9-3		
自己評価作成日	平成21年7月16日	評価結果市町村受理日	平成21年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

チームケアを基本にスタッフ各々が協力して組織作りを行い、最高のサービスが出来る様に配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地に隣接して地区の公園があり、天気の良い日にはテーブルを運んで食事やお茶を楽しんでいる。職員は理念に掲げている「生きる喜びを感じて暮らせるケア」を目指して、利用者が楽しい毎日を送ることができる手立てを常に考え、臨機応変且つ明るく細やかな気配りで接している。利用者の表情が豊かで明るい印象を受けた。管理者は認知症地域ネットワークや高齢者福祉の勉強会などに関わっており、職員の研修参加にも積極的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意味を理解し、理念を決めて朝の申し送り時唱和し、意識作りを行っている。	職員は理念のメインである「地域の人々との交流を図りながら生きる喜びを感じて暮らせるケア」を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々との交流をもとに散歩時に立ち寄り頂き談話の出来る状態にある。地域行事にも参加させて頂いている。	近くの小学校の通学路に面しているため、日常的に子供達や散歩する人たちと挨拶を交わしており自然に交流ができています。近隣の主婦らが話し相手のボランティアに訪れているなど、地域からの理解と協力が得られており、事業所の行事には参加者が増えてきています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症というだけで公平に受診ができない事等があるので、行政・地域の方々と手を取り合い認知症であっても公平に生きていく支援の輪作りを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ホームのおかれている現状を常に報告し意見を頂き、サービスの向上へつなげている。	会議は2ヵ月毎に定期開催されている。会議では出席者の建設的な意見や要望が出され、事業所として事業運営に適切に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より連携を取り、困難状況などについても、相談をし、アドバイスを頂きながらホーム運営を行っている。	市の担当者と随時に電話・または出向いて相談をし、アドバイスを受けながらケアサービスに活かしている。また、認知症地域ネットワークに参加し、行政と連携しながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議等で身体拘束についての意識作りを行い常に拘束にあたるか、あたらないかの判断を行いながらケアに努めている。	職員全員が身体拘束に関する禁止事項を認識・理解しており、職員の研修参加も積極的に行っている。玄関の施錠もしておらず、外出願望の強い利用者についてはさりげなく見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加して知識を得る機会作りを行わない、虐待のおきない、おこさないサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政等で行う研修に参加して知識習得はしているが、現在利用例は無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際して事前に説明を行い契約書をお渡しの際は、十分理解していただける説明を行い、対応を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時には話しやすい雰囲気作りを行いゆっくり話す時間をもち意見や苦情の把握に努め運営に反映させている。	家族の来訪の際には、意見や要望を言い出し易い雰囲気づくりに務めている。また、毎月担当者から利用者各人の生活内容を記した「家族への手紙」を作成し、金銭出納帳のコピーとレシートを併せて送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりが自らの職場として働きやすい環境づくりを行ない、実践している。	毎月開催されるスタッフ会議の中で職員から出された意見や提案は管理者を通して代表者へ報告され、速やかに対応されている。また、定期的に開催される法人内ブロック会議の際にスタッフ会議で聴取した意見を運営者へ報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自らの職務について日頃より認識を行い職務を遂行されている。 本人の向上心を持てる職場作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各方面の研修を受講できる機会作りを行ない、いつもストレスの抱えないサービスが出来る状態作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全職員が認知症ネットワーク“ことの葉ネット”に参加し、意見交換を行い交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分の思いを、自分を知って欲しい、自分の存在を認めて欲しい、という心の叫びを受け止めて安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	環境を変える事への不安、出した結論への不安、自分自身を責め続けている介護者、出した結論が間違っていないこと、今後自分が出来る事の支援、話し合う機会を多くして関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が求めているもの、ご家族の求めているもの、現段階で必要な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを聴きながら信頼関係の持てる関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を常にご家族に伝えて離れていても安心して頂ける、又いつでも家族同様会話の出来るようコミュニケーションを取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者各々の状況に応じて関係が保てる為の支援を行っている。	家族が付添って入居前からの馴染みの美容院に行ったり、スタッフと一緒に新聞折込のチラシを持参してスーパーや100円ショップでの買い物を楽しみながら新しい馴染みの関係を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者各々が共有スペースで交流の持てる支援作りを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況状況に応じて退去後も相談に応じ、不安なく介護して行ける様に支援を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を把握し困難な時には福祉関係者との連携を取り問題解決してサービスにつないでいる。	入居時の情報だけに頼らず、毎日の生活を観察しながら本人の意思や希望を把握し、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを作成して今までの生活状況を把握して本人が以前と同様、安心して生活出来る支援作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル実施し、健康状態の把握に努め、各々が穏やかに一日が過ごせる様に支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で全員で話し合い、又、家族来所時話し合いの場を設け、意向を伺い本人にとって最良のサービス計画書が作成出来る様に努めている。	ケース会議においては一人ひとりの状態を十分に話し合い、モニタリングを行って介護内容の優先順位や具体的な内容を検討し、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をケース記録に記入し、朝の申し送り時、又、夕方方の申し送り時に報告し共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思い家族の思い等状況に応じて臨機応変に対応し支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多方面の協力を頂きながら、本人が安心して安全に暮して行ける様に支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診を月2回行って頂き各入居者様の健康管理を行ない、ご家族・ご本人・ホームとの信頼関係のもと対応を行なっている。	通院は家族が対応し、適切な医療受診が行われている。事業所として月2回の往診を取り入れており、救急の場合にも対応してくれるため、家族からも信頼されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職・介護職と情報交換のもと入居者様一人ひとりの体調管理が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者との連絡を密にして入居者様が安心して医療が受けられる体制作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の体調に合わせてご家族の意向、管理者との話し合いの場を設けて、どう対応して行くか状況に合わせて話し合いを行っている。	事業所として『重度化した場合における(看取り)指針』を作成し、入居時に家族等へ説明し、事前確認書により家族の意向を確認している。看取りを実施する場合、家族へ説明し同意を得て、看取り介護計画書を作成し、家族との話し合いも頻繁に行い実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を行い、スタッフ各々の意識作りの機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者一人ひとりの身体状況を常に把握し、災害時どう対応を行なうかと、スタッフ会議・申し送り時に話し合っている。備品についても準備している。	訓練計画に基づき年に2回実施し、夜間想定訓練や2階からの救助訓練も行っている。災害時の備蓄もある。	今後は、訓練回数を増やして、地域住民の協力体制を構築しながら取り組まれることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の性格又、今までの生活状況を把握し本人のプライドを損ねない対応に努めている。	人生の先輩である利用者一人ひとりに親しく且つ敬意を持って接している。また、職員は個人情報の秘密保持を認識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様それぞれが思いを話せる雰囲気作りを行い、常に傾聴し対応を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様各々が、各々のペースでお過ごし頂ける環境づくりを行ない、支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後、外出時、入居者様の思いに添ったおしゃれが出来る様に支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	出来る所を出来る方が協力して、又、食べたい物に対しても入居者様の意見を重視して提供している。(外食の機会も設けている)	毎日の献立は決めてあるが差し入れ等には柔軟に対応している。隣接する公園で秋刀魚の炭火焼をし、利用者に食事を楽しむ機会を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れたメニューを提供し、一人ひとりの状況に応じた対応を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けを行い、介助・支援により行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の状況に合わせた支援を行い、出来るだけトイレでの排泄の出来る支援を行っている。	トイレは各人の個室にあり、利用者それぞれのリズムに応じての支援が他の利用者に気兼ねせずにさりげなく行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす機会作りとしてラジオ体操、散歩、階段昇降・飲食物の工夫も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添って対応し、安心して入浴を楽しめる雰囲気作り、対応を行なっている。	利用者の希望によっては夜間の入浴もできる体制を組んでいる。また入浴を好まない利用者には緩やかな話しかけなどをして入浴を楽しむ雰囲気作りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを把握して、安心して休んで頂ける状況作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、薬剤師の方を交えての勉強会を行い、処方されている薬について理解した上で服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの思いを聴き、又、生活歴などを把握して安心して生活できる状況作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	状況状況で希望に添った支援を行い、外出の機会も多くし、対応を行なっている。	隣接している公園での食事を楽しむことをはじめとして、近隣のファミリーレストランで食事をしたり、郊外へピクニックに出かけるなど利用者の生活にメリハリをつける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状態に応じた対応を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出により電話対応を行なっている。又、手紙についても希望により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感、入居者様の希望により、節目節目の環境作りを行ない、気持ちよく目で楽しめる支援を行っている。	共有空間は広く明るい。リビングや壁には笑顔いっぱいの写真や広報紙が貼ってあり清掃も行き届いている。テレビだけではなく自由に操作できるCDプレーヤーがあって、なつかしい歌やメロディーをいつでも聴くことができ、利用者はソファや好みの椅子で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室をお互いに訪問したり、共有スペースでソファでゆったり過ごせる様にと工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各々が馴染みの物をお持ちになり、自分の家、自分の部屋として安心して暮らせる場所となっている。	居室に馴染みの家具や仏壇などを持ち込んでいる利用者もあり、手芸品を飾ったりして自宅での生活と同じ雰囲気生活している。トイレが各人の個室にあるので他の利用者に気付かれることなく使うことができ、プライバシーが守られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事への参加を促して、自らが役立っていると思える支援を行っている。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 楓の郷

記入担当者名 荒川 トシイ

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。